



新品種『紅ずきん』

チエリツプ
四季だより

花に寄せるところ

——チューリップ賛

久泉 迪雄

チューリップをうたう

砺波地方のチューリップ・フェアは、つとに著名です。毎年全国各地から、たくさんのお客を集めています。チューリップ・フェアは、当世流行のへ町おこしの一つといえ言えるのですが、これは全国的にそんなことが言われるずっと以前から行われ、定着しているイベントです。

富山市にお住まいだった俳人黒田晩穂さんの句に、

散居村

つなぐ明るさ チューリップ

というのがあります。たとえばチューリップの開花シーズンに、砺波野を車で走りつつ、「あ、あそこにもそう、あそこにもあるわ。ほんとにきれい。」「素晴らしい眺めだねえ。」と抜けていく人の気持ち、さながらに代弁しています。

長澤美津さんは、石川県出身の歌人。『女人和歌体系』の編纂とその研究業績で現代短歌大賞を受賞された

学究でした。「女人短歌」の主宰でしたが、今年四月二十六日、九十九歳の天寿を全うされました。砺波のチューリップを詠まれた二首をあげましょう。

切り捨てられるまでのしばらくの
チューリップが地に描く花模様

長澤 美津

散るまでをまたず切り去るチュー
リップにて個の花を惜しまず

球根を育成するために、見事に咲いた花がへ惜し気もなく切り捨てられるのは、やはりへ惜しいと思うのは人情でありましょう。

さて、こんな短歌も詠まれています。

チューリップの燃え上がりみる
栽培地みるからに不倫の息づかひなし

中塩 清臣

中塩さんも故人ですが、富山大学、北海道学芸大学で国文学の教授を務められた学究であります。チューリ



▲となみチューリップフェア

ツブの咲き盛るさまを眺めて、この
明い華やぎは決してへ不倫の息づ
かいではないと、すこやかに展覧
した実感を歌いあげております。濃
艶ともいべきチューリップの花色
をまず感じた作者は、思いを転じて、
まことにすこやかな景観と展望して
いるのでしょうか。私も中塩さんの歌
う姿勢に同調したいと思います。

チューリップの別名・鬱金香

どの植物図鑑を見ましても、チュ
ーリップの別名として、^{うこんこう}鬱金香が
挙げられています。かの著名な『牧
野植物図鑑』でも同じ様に、この呼
び名をあげておりますが、果たせる
かなへ誤用との注記がしてあります。
牧野富太郎博士における誤用の注
記は、たいへん重い意味がありまし
て、通説を否定する学者的良心から
の記述で、無視することは出来ない
のです。しかし興味深いのは、博士
はチューリップの別名へ鬱金香を
誤用は誤用として論じながら、巷の
俗称としてこれを、一応は認知して
いることです。

誤用であるにしましても、私はこ
のへ鬱・金・香の三字を、つくづく
と眺めていますと、如何にもチュ
ーリップの花の印象を、巧みに表して
いるように思えてくるのです。先人
のこうした命名の知恵というものは、

やはり大切にしていいたのではないで
しょうか。

花を持ってきたずねる

まだ旧ソ連の支配体制にあったこ
ろのポーランドでの体験を話しまし
よう。

国際版画ビエンナーレに参加する
ため一九八八年五月、私はクラクフ
市に行きました。当時のポーランド
の生活水準はまだかなり低く、もの



▲花屋さん和孩子たち。ポーランド国、クラクフ市中央広場にて
(1988年6月)

もまだそれほど潤沢ではありません
でした。そういう頃であるのに、街
角には、おどろくほど花屋さんが軒
を連ねており、また広場には、行商
の花屋さんがあふれていました。私
はうかつにもその時まで、人を訪問
するとき、かならず花をたずさえて
ゆきプレゼントするという、ポーラ
ンド人たちの生活習慣を知らなかつ
たのです。

暮らしにゆとりのない中にも、少
しでもいい、花を携えてゆくという
彼の国の訪問のエチケットを知るに
およんで、私はポーラ
ンドの人たちのうる
わしい暮らしの習慣に、
ここから共感を覚
えました。

ワルシャワに滞在
中お世話になったのは、
ポーランド国展示中
央事務所長のプタス
ニク氏でしたが、私の
持参したささやかな
土産に対し、答礼のた
め、わざわざ滞在のホ
テルにお見えになり
ました。そのときプタ
スニク氏から頂戴し
たのは、同国公式訪問
を記念するメダルと
見事な花束でした。「滞
在中、お部屋でこの花
をお楽しみください」

とのこと。

国全体が苦しい時代にあっても、
花を愛してやまないポーランド人の
心意気に、私はほれ込んで、それ以来、
かの国の人々への尊敬の念を深くし
ております。

【略歴】

ひさいずみ みちお



一九二七年七月二十五日 東京生ま
れ。

金沢工業専門学校(現・金沢大学工
学部)機械工学科卒。
教職から富山県職員を経て、富山県
立近代美術館副館長・高岡市美術館
館長を務める。学校法人富山国際職
藝学院創設に関わり、副学院長を経
て、現顧問・特別講師。
社団法人富山県芸術文化協会副会長・
富山県歌人連盟会長。
日本文芸家協会・日本ペンクラブ・
現代歌人協会会員、日本歌人クラブ
参与、日本近代文学館維持会評議員・
日本現代詩歌文学館振興会評議員等。
林間同人、「綺羅」主宰。

富山オリジナル
チューリップ

新品種

紅ずきん 誕生!

〈富山県農業技術センター野菜花き試験場育成〉



去る九月、富山県農業技術センター野菜花き試験場で作り出された新品種「紅ずきん」が農林登録されました。

今回で、砺波生まれの農林登録品種は二十七品種となり、昨年に引き続き二年連続の新品種の登録となります。昨年登録された農林25号「春万葉」や26号「白ずきん」と同様に四月下旬から五月上旬に開花する極遅咲きで、晩生品種としては数少ない濃橙赤色の品種です。

現在種苗登録申請中で、市場に出回るのは数年先ですが、来年のとなみチューリップフェアで初公開されます。

開花時期が遅く花壇向きの品種であることから、ゴールデンウィークにかけて開催する当チューリップフェアの主力品種となる日も近いかもしれません。



農林10号 白雪姫



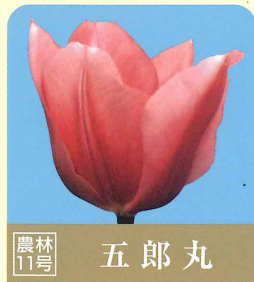
農林7号 三姉妹



農林4号 トナシティー



農林1号 サクラ



農林11号 五郎丸



農林8号 神通



農林5号 クリスマスレッド



農林2号 ウイステリアメイド



農林12号 紫水晶



農林9号 薄化粧



農林6号 オトメ



農林3号 プリンスオブニッポン

富山オリジナル
チューリップカタログ



農林27号 「紅ずきん」

育成期間 一九八四年～二〇〇五年

花の色は濃橙赤色で、開花期間も約二週間と長く花を楽しむことができる品種です。近年、発病率が高い傾向にある土壌伝染性の病気にも強く、茎や葉も強健なことから花壇植えに適した品種です。



▲ 'ナウシカオ'

昭和五十九年に花色が桃紫色で茎や葉が強健な品種、ナウシカオ、(二重咲き)と球根肥大性の大きい、ミセス・ジョン・ティー・シーパース、(二重咲き)を交配し、平成元年より選抜、検定を繰り返し、この秋登録されたものです。

● 農林登録とは？ ●

国で唯一のチューリップ指定試験地である富山県農業技術センター野菜花き試験場(砺波市五郎丸)で育成され、国の厳しい審査を経て農林番号を付けて登録されるものです。従って、農林登録されたチューリップはすべて砺波生まれなのです。



▲ 'ミセス・ジョン・ティー・シーパース'



農林 25号 春万葉



農林 22号 春乙女



農林 19号 雪壺



農林 16号 初桜



農林 14号 黄小町



農林 26号 白ずきん



農林 23号 ありさ



農林 20号 夢の紫



農林 17号 白雲



農林 13号 紅輝



農林 24号 ウェディングボール



農林 21号 恋茜



農林 18号 紅豊



農林 15号 紫雲



Tulip History

チューリップの歴史

オランダ編

パート3

～歴史的球根の宝庫「球根栽培博物館」(オランダ球根博物館発行)より～

●球根栽培博物館が国際的に

第二次世界大戦が終り、オランダの大部分が廃墟と化しますが、球根栽培博物館のチューリップ品種保存園は、一九四五年冬の飢饉によってその球根が食用にされた以外は、難をのがれています。その後間もなくして状況は良くなり、一九四六年には戦後初めての「球根花の日」が熱心に催され、チューリップの品種コレクションが全て開花すると同時にその日のお祭り気分は最高潮に達し、博物館を国際的にしようとする新たな提案がなされました。それまでは品種コレクションが外部で紹介されることはほとんどありませんでした

1945 > 1988

『戦後の復興と前進』

●平穏な一九五〇年代

一九四九年にナールデン(オラン

が、スウェーデン、ウプサラの学園都市に十七世紀から十八世紀頃までの古い品種の一部が寄贈されています。これは、一九四五年初頭のスウェーデンからの食料援助に対するお礼の気持ちを表したものです。

その後、アメリカで一九二九年以来毎年開催されている、チューリップタイムフェスティバル(アメリカ、ミシガン州)の「オランダ街」用にも、その歴史的な品種が船で送られています。当時、このイベントはアメリカで五番目に大きいフラワリーブントでした。

ダ中部、湖岸の都市)へ引越し、園芸学校の校長に就任したピーター・ボスマンは、ネバーズイ協会(ネバーズイ協会の会員として活動)を続け、その一つとして名誉会長とともに、ジュリアナ王女の四十歳の誕生日にチューリップとヒアシンthusで作ったフラワールンジメントを贈りました。

博物館とネバーズイ協会の歴史において一九五〇年代は比較的に静かな時期でしたが、一九五七年、その協会の推進者であり、品種保存園の創設者の一人でもあった、デ・モル博士が亡くなったことは、協会には大きな痛手となり、翌年の博物館開館三十周年記念は静かに行われました。

●フロリアード(一九六〇年)

フロリアードはオランダ初の国際的な園芸博覧会で、球根栽培博物館からは古い品種を含む約千七百球が展示されました。中でも、ラックファン・リーン/Lac van rijn、(一六二〇年)や、ウェイペン・ファンライデン/Wapen van Leiden、グーデンスタンダード/Gouden



▲フロリアード2002(国際園芸博覧会)

Standard、(共一九七六〇年)、パーペルクローン/Puiperkroon、(一七八五年)、ロード・ブルータス/Rode Bruns、(一八三〇年)という品種が大変注目されました。この展示は長年の努力の成果を大衆に見せる大きなチャンスであり、博物館の技術者達が全力を注いだ結果、ネバーズイ協会と球根栽培博物館の両者は「チューリップの古典品種」部門で金メダルを獲得し、展覧会は成功を収めました。

チューリップ四百年祭

初めてチューリップが西ヨーロッパに紹介されて四百年目の記念の年である、一九六〇年五月六日、ライデンにある植物園での式典にトルコからチューリップでいっぱい馬車に到着しました。ピーター・ボスマンは十六世紀の服装で、初代園長であったカルロス・クルシウスとフランダース貴族O・G・ブスベクに扮した二人に、お祝いの詩を朗読しました。

ブスベクとはトルコ皇帝スレイマン二世の時代の駐オーストリア大使で、チューリップを初めて西ヨーロッパに持ち込んだ人物です。

また、同年、ネバーズイ協会創立二十五周年記念に際し、草花と庭木に関する専門書が出版されました。これには、ニコラ・ブロッカー、ピーター・ボスマン他による興味深い寄稿も掲載されています。彼らは、後にデ・モル博士によつてフロリアードやチューリップの歴史における科学的偉業を称えられた人物です。

四十周年

ピーター・ボスマンは園芸学校の校長を辞任した後もお、活動し続けています。一九六二年、ボーベнкаスperlで有名な球根イベントのウエストフリース・フローラにおいて、博物館から四十三品種のチューリップが出展されると、展示を成功に導



▲ウエストフリース・フローラ(2003年)

いた技術者を称える報道がなされました。その翌年、リッセの研究所から多数の品種が加わり、品種保存園が所有するチューリップコレクションは、チューリップが九百種、ヒアシンス七十種、スイセンが二十種と大幅に増えました。

博物館開館四十周年の一九六八年から五年間は祝賀行事が盛大に行われましたが、翌年は設立当初からのメンバーであったニコラ・ブロッカーが会長の職を退いています。

最初の受賞

一九七二年、アムステルダムで開催された第二回フロリアードにおいて、球根栽培博物館は、現在でも人気の高いチューリップ二百五十品種を展示すると、その高品質な花々に再び大衆の強い関心が向けられ、国際審査員によつて金賞が与えられています。

花粉貯蔵庫

また、その年には、ネバーズイ協会会長の記者会見で、球根栽培博物館が公共の花粉貯蔵庫であることを説明したことにより、育種家たちは新品種を作るための様々な品種の花粉を博物館から調達できるようになりました。

同じ頃、ワグニンゲン農業大学の科学研究所(現在のワグニンゲン総合大学及び研究所)の協力で、園芸植物育種協会(IVT)が設立され、より優れた新しい品種を作るために数百品種がその研究所に送られました。博物館の技術アドバイザーであるIVTのエリック博士は長年にわたりこのプロジェクトを援助し続けています。

お別れ

ネバーズイ協会の主要事業の一つである球根栽培博物館が、

注目すべき出来事

建設から約四十年後、古い村の小学校からリンメンの農家へ移転したその翌年、すでにネバーズイ協会から離れていたニコラ・ブロッカー氏が亡くなっています。彼はずっとピーター・ボスマンのサポーターであり、何十年もの間、気前の良い球根コレクターでした。

一九七五年、五十年間にわたり球根一筋であったボスマンは、七十八歳になったその年、会長を辞職しますが、その後、彼の業績を称え、オレンジナツソー階級の称号が彼に与えられています。

一九七八年二月五日、ピーターボスマンは、彼が熱心に手がけた新品種の開花を見ることなく、八十一歳の生涯を閉じています。同年春、キューケンホフにお披露目となった完成品(新品種)は大いに注目を集め、クイーンズデイの週末には、そのすばらしい新品種を見ようと、リンメン公園へ三千二百人という記録的な来訪がありました。

また、その年には、球根栽培博物館の五十周年が一九八五年にはネバーズイ協会の五十周年記念の祝賀会が行われ、以後、博物館は花粉貯蔵庫としての役割を着実に強化していったのです。

チューリップ四季彩館
からのお知らせ

季節展示

『 香りのフラワーガーデン -クリスマスを彩る庭- 』

香りのある針葉樹と、チューリップやポインセチア、シクラメン等の花々でクリスマスを彩ります。キャンドルのオブジェやイルミネーションの光きらめく庭園をお楽しみください。

と き 11/18(金)～12/27(火)

ところ チューリップ四季彩館 テラス



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

2005年12月発行
(財) 砺波市花と緑の財団 〒939-1381 富山県砺波市中村100-1
TEL 0763-33-7716 FAX 0763-33-0090
URL <http://www.tulipfair.or.jp>